

伊澤エイ作品「小鳥と青空」のダンス指導に関する一考察

和田 春恵

I. はじめに

本学・大学1年生のダンス授業の課題として、中学校・高等学校の学習指導要領に掲げられている「創作ダンス」「フォークダンス」「現代的なリズムのダンス」の他に本学特有の「自然運動、既成作品」を取り入れている。「伊澤エイに関する研究(I)」の中で、自然運動は『エイは、ボーデの自然体操理念をもとに、ダンスの基本的原理は、自然運動であることを理解した。そしてその実践は、「体操と取り扱いこそ異なっているが、『緊張、解緊、弾性、蛇動、振動、重心移動、跳法等』が主な練習であり、特に跳法も身体の柔軟性に深い関係があることを見逃がすことが出来ない。』¹⁾』と述べられている。筆者がダンスの授業に自然運動を取り入れている理由は、十分に動くことができる体を作る為の基礎的な運動として適している、また自然運動により構成されている既成作品を踊ることで、ダンスの技術的な向上および作品の持つイメージを音楽に乗せて踊るというダンスで最も大切な表現力を習得する目的からである。

そこで、本研究では「小鳥と青空」に関するアンケート調査を行い、受講生がどの動きを難しいと感じその動きをどのように克服したのか、さらには、この作品を習得した結果どのように感じたのかを明らかにし、今後の指導法の一助とすることを目的とした。

II. 伊澤エイ作品「小鳥と青空」について

この作品は、「伊澤エイに関する研究(I)」によれ

ば、エイが欧州からの帰国後、昭和6~39年までの33年間に創った260余の作品の一つで、昭和29年3月に創作された作品である。また伊澤エイは「新学校ダンス」の中で、『舞踊する身体を作るための基礎的教育と並行して、教育的見地から選択した優秀な参考作品を必要とする訳で今茲に運動価値を重視し、動きの自然法則による知的で上品な運動美を発揮しながら繊細で微妙な運動感覚をねり心身の秀美麗を目標とした内容を持つ作品²⁾』と述べている。

作曲:米山正夫 拍子は8分の6拍子から4分の3拍子から8分の6拍子と変化しており、8分の6拍を2拍と数えるとトータル390呼間の作品である。動きは前述の通り、自然運動である緊張、解緊、弾性、蛇動振動、重心移動、跳法、各種ステップなどから成り、リズムカルな動きと柔らかく流れるような動きで構成されている。

III. 研究方法

1. 対象者および授業の進め方

平成17年に筆者が担当したダンスIの受講者(体育学部体育学科1年a. c. d. fクラス合計226名)を対象に調査した。

授業の進め方は、自然運動「緊張、解緊、弾性、蛇動、振動、重心移動、跳法」を繰り返し訓練した上で、伊澤エイ作品「小鳥と青空」を学習させた。

なお「小鳥と青空」は1回45分を6回かけて指導し、7回目の授業時にテストを行った。また、テストの3週間前から週2回昼休みの30分間を使い、自由参加で補講を行った。

2. 調査方法および日時

質問紙法によるアンケート調査を行った。

平成17年10月課題終了後一斉配布し回収した。回答は受講生全員から得た。

3. 調査内容

「小鳥と青空」に関する設問を以下の通り用意した。

①「小鳥と青空」の好き・嫌いについて

好き、普通、嫌いから選択し、理由は自由記述で書いてもらった。

②「小鳥と青空」の苦勞した動き、苦勞した動きの克服方法、好きな動き、嫌いな動きについて

多肢選択法を用い、理由は自由記述で書いてもらった。

③「小鳥と青空」に関する感想について

自由記述で書いてもらった。

IV. 結果と考察

アンケートを集計し次のような結果が得られた。

1. 「小鳥と青空」の好き・嫌いについて

図1で示すように、226名中98名(43%)が好き、14名(6%)が嫌いと答えていた。

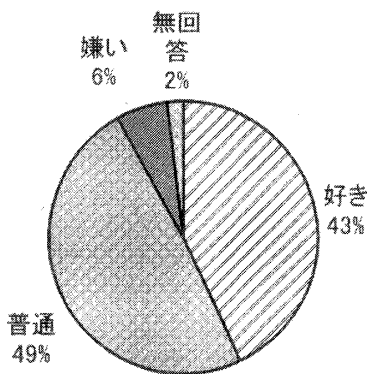
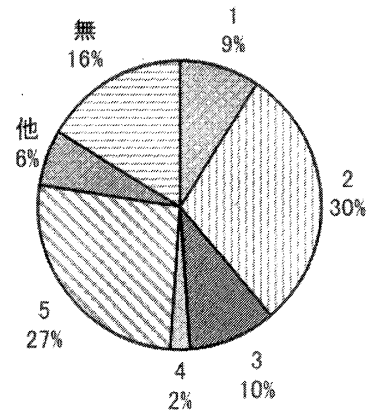


図1 「小鳥と青空」の好き嫌いについて

2. 「小鳥と青空」の好き・嫌いの理由について

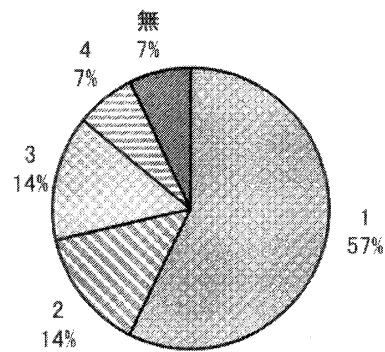
好きな理由は図2で示すように、好きと答えた98名中29名(30%)が「楽しいから」、26名(27%)が「努力してできるようになったから」となり、3割近い受講生が前向きに努力した結果この作品を好きになったことが判った。



- 1 初めてやって新鮮だった
- 2 楽しい
- 3 小鳥の雰囲気が好き
- 4 難しい踊りに挑戦できるから
- 5 努力してできるようになったから

図2 「小鳥と青空」の好きな理由

嫌いな理由は図3で示すように、嫌いと答えた14名中8名(57%)が「難しいから」と答えていた。難しいから嫌いであるという受講生が若干名いることが判った。



- 1 難しいから
- 2 覚えられない
- 3 踊ることが嫌い
- 4 作品が長いから

図3 「小鳥と青空」の嫌いな理由

3. 「小鳥と青空」の苦勞した動き、苦勞した動きの克服方法、好きな動き、嫌いな動き、「動きD」について

「小鳥と青空の動き」を以下の通り八分割し、選んでもらった。

- A. イン트로から空を仰ぐ動き
- B. スキップと波動
- C. スライド+ターンと後倒
- D. 3拍子—①
- E. 3拍子—②
- F. 小走り+波動と座運動
- G. 斜めジャンプと横移動
- H. 横回転ジャンプからラスト

(1) 苦勞した動きについて

図4で示すように、226名中87名(38%)が動きD、26名(12%)が動きB、24名(11%)が動きC、23名(10%)が動きE、30名(13%)がなし、他は若干名という結果であった。動きDと動きEは8分の6拍子のリズムカルな動きから、4分の3拍子のしっとりした動きに変わり、特に動きDは一拍ずつステップが変化していく一方、腕は柔らかに動かすという複雑な動き方であるため毎年受講生が苦勞している動きである。

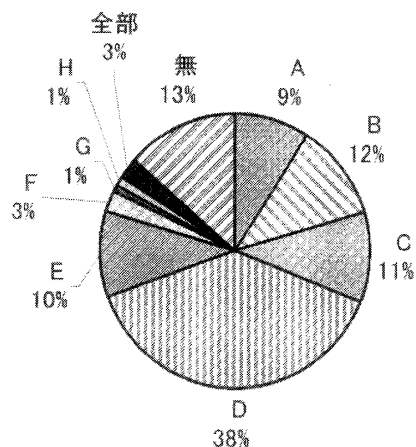
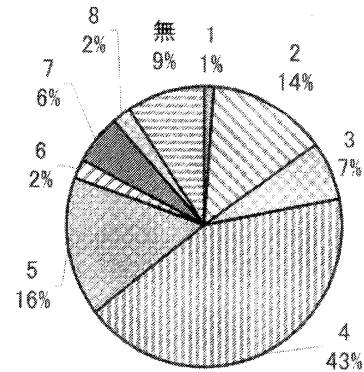


図4 「小鳥と青空」の苦勞した動き

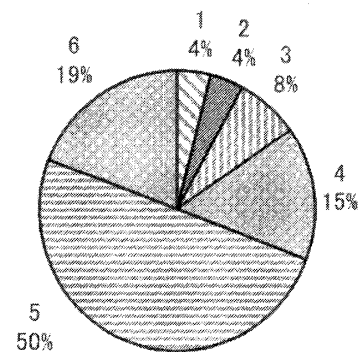
理由としては図5で示すように「手と足の動きができない」「ステップが難しい」との回答が多く挙げられていた。



- 1 左右が分からなくなる
- 2 覚えられない・忘れてしまう
- 3 拍子が分からなくなる
- 4 手と足の動きができない
- 5 ステップが難しい
- 6 うまくできない
- 7 その日休んでいた・見学していた
- 8 ケガなどでできない動きがあった

図5 「動きD」の苦勞した理由

動きBと動きCはリズムカルな動きであるが、特に動きBはスキップからスタンプへとステップが変化すると同時に体の向きを即座に変える動きであり、図6で示すように「ステップが難しい」「うまくできない」という理由が多く挙げられていた。



- 1 左右が分からなくなる
- 2 覚えられない・忘れてしまう
- 3 拍子が分からなくなる
- 4 手と足の動きができない
- 5 ステップが難しい
- 6 うまくできない

図6 「動きB」の苦勞した理由

(2) 苦勞した動きに対する克服方法について

苦勞した動きがあると答えた194名中189名(97%)が克服する努力をしたと答えていた。

その方法は図7で示すように、189名中46名(24%)が「自主練習+友人や教員に教わった」、44名(23%)が「友人や教員に教わった」、35名(19%)が「補講+自主練習+友人や教員に教わった」と様々な形で努力していたことが窺えた。

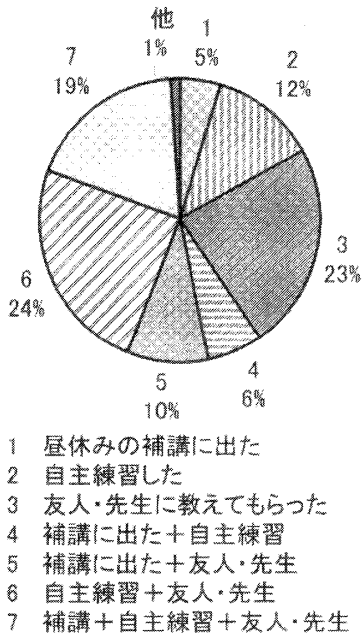


図7 苦勞した動きの克服方法

(3) 好きな動きについて

図8で示すように、好きな動きがあると答えた128名中38名(30%)が動きDと答え1位となった。次いで動きAと動きGが共に35名(27%)という結果となった。

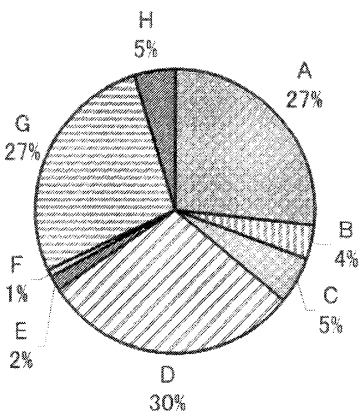
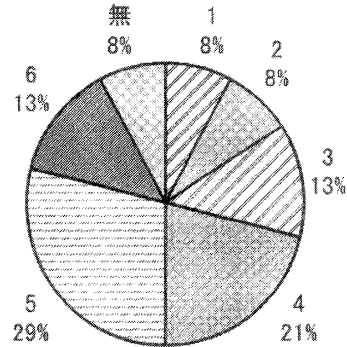


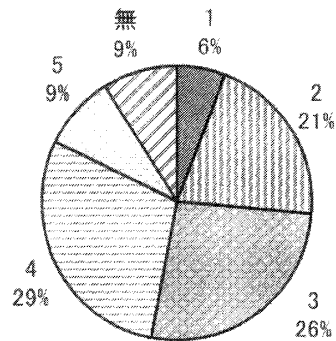
図8 「小鳥と青空」の好きな動き

理由としては、図9、10、11で示すように、動きDは「たくさん練習をしてできるようになったから」、動きA、動きGは共に「その動きが好き」が多くを占めていた。



- 1 リズミカルだから
- 2 楽しい動き
- 3 小鳥の雰囲気が好き
- 4 その動きが好き
- 5 たくさん練習をしてできるようになったから
- 6 動きに流れがあるから

図9 「動きD」の好きな理由



- 1 リズミカルだから
- 2 楽しい動き
- 3 小鳥の雰囲気が好き
- 4 その動きが好き
- 5 たくさん練習をしてできるようになったから

図10 「動きA」の好きな理由

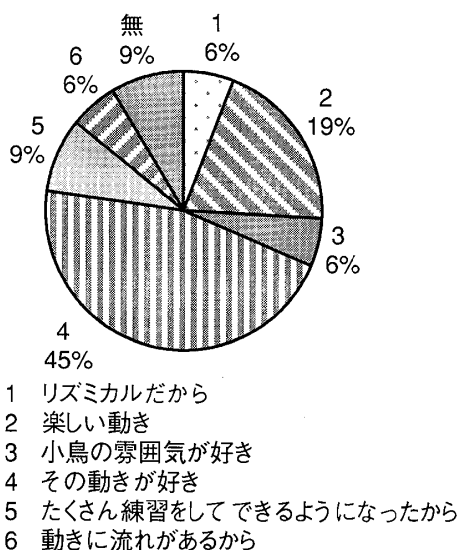


図11 「動きG」の好きな理由

(4) 嫌いな動きについて

図12で示すように、嫌いな動きがあると答えた41名中9名(22%)が動きDと答え1位となった。次いで8名(20%)が動きBと答えていた。

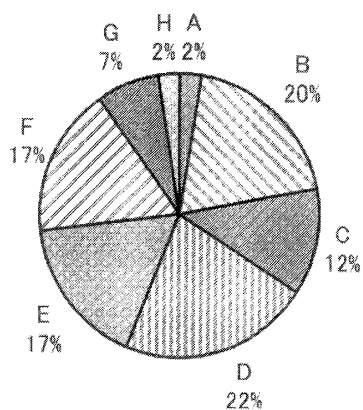


図12 「小鳥と青空」の嫌いな動き

図13、14で示すように動きD、動きB共に半数以上が「難しかったから」とその理由を挙げていた。

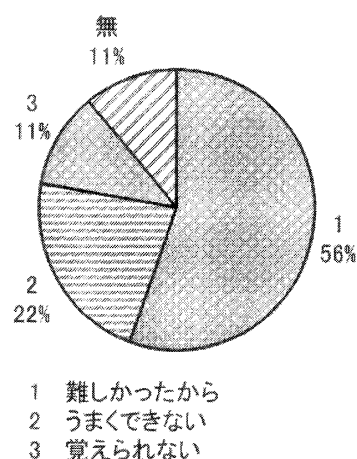


図13 「動きD」の嫌いな理由

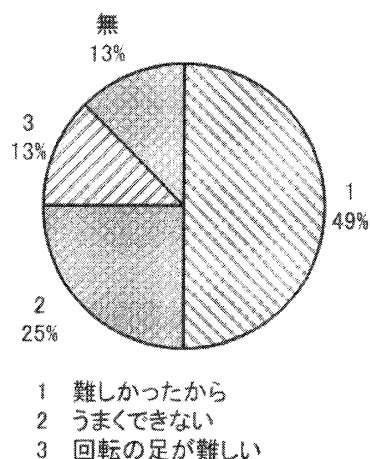


図14 「動きB」の嫌いな理由

(5) 「動きD」について

苦勞した動きとして「動きD」を挙げた87名中9名(10%)が「好き」と回答し、6名(7%)が「嫌い」と答えていた。好きな理由としては、「たくさん練習をしてできるようになったから」、「Dの動きが好き」が挙げられ、手と足の複雑な動きに苦勞しながらも時間をかけて克服していく中で、3拍子のしっとりした動きの良さが実感できたものと考えられる。一方、嫌いな理由としては「難しかった」、「うまくできない」、「覚えられない」が挙げられ、克服するよう努力はしたものの、やはり複雑な動きが消化できなかったという思いが残ったのであろう。

4. 「小鳥と青空」に関する感想について

表1で示すように「最初はできないと思ったが頑張っ
てできるようになりうれしかった」が226名中104名
(46%)、「楽しく踊れてよかった」が41名(18%)と、
頑張っ
てできるようになり踊れたことに喜びを感じて
いるという前向き
の意見が多かった。また「本学特
有の自然運動を基本にした作品ということ
で小鳥
と青空を学べて良かった」という回答も寄せられて
いたが、一方では「難しかったのでもうやりたくない」
という意見も15名(7%)挙げられていた。

表1 「小鳥と青空」の感想

	感想	人数	%
1	最初はできないと思ったが頑張っ てできるようになりうれしかった	104	46%
2	頑張ったところを認められた	2	1%
3	東女独特の動きを覚えられてうれしい	6	3%
4	授業が楽しかった	22	10%
5	楽しく踊れてよかった	41	18%
6	友人と教え合えたので楽しかった	5	2%
7	もう少し練習すればよかった	7	3%
8	よい経験になった・勉強になった	4	2%
9	難しかったのでもうやりたくない	15	7%
10	無回答	20	9%

V. まとめ

「小鳥と青空」に関しては、43%の受講生が好き
と答えていた。

苦勞した動きでは、3拍子のしっとりした「動きD」
を挙げている受講生が38%という結果であった。
理由としては手と足が複雑に変化する動き方に苦
慮していたことが明らかになった。

克服した方法に関しては、分からない動きを友
人や教員に教わったり、自主練習をしたり、積極
的に昼休みの補講に出るなど、試験に合格するた
めに努力していたことが明らかとなった。

好きな動き・嫌いな動きに関しては、いずれも「動
きD」が1位に挙げられ、「時間をかけて練習をして
できるようになったから好きになった」という回答の

一方、「難しい、覚えられない、うまくできないから
嫌い」という両極端の結果が明らかとなった。「動
きD」は「小鳥と青空」の重要なポイントとなること
が確認できた。

本研究により、今後「小鳥と青空」を指導する際
、受講生が苦慮している「動きD」「動きB」「動きC」
「動きE」を脚の動き、腕の動きを区切り、それぞれ
しっかり把握させて、全身の動きとして覚えさせる
ことに留意していくことが重要であることが明らか
となった。

今回の研究では表現に関する設問を設けなかつ
たため、「小鳥と青空」という作品のイメージを意識
したかどうかは明らかにはならなかったが、今後作
品を踊るために必要な表現方法についての研究を
深め、指導法に役立てていきたい。

引用文献

- 1) 山田敦子・田川典子(1981)伊沢エイに関する研
究(I). 東京女子体育大学紀要16:99.
- 2) 伊沢エイ(1954)新学校ダンス. 金子書房:1-2.